

2013/8/20

柏の景気情報（平成25年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年7月分）

○ 調査期間 : 平成25年7月23日 ~ 7月26日

○ 調査対象 : 柏市内158事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	158	93	58.9%
建設	44	26	59.1%
製造	34	17	50.0%
卸・小売	44	36	81.8%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年7月の調査結果のポイント】

《業況DI値は再び改善するも、消費税・原材料値上げの懸念あり》

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.2(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が△3.0ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、建設業△3.8(同▲18.1)、サービス業△14.2(同▲6.2)で、建設業は△21.9ポイント、サービス業は△20.4ポイントとプラス幅が大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.6(同▲44.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲23.5(同△11.7)であり、マイナス幅が▲35.2と大幅に拡大した。

【建設業】からは、「他業種はわかりませんが、多分仕上げ業者は仕事がないです」(石工れんがタイルブロック工事業)、「エアコン工事が増加。省エネタイプに取替えが多い」(電気工事業)、「利益率が低いので売上げを増やし、利益を確保しようと薄利多売のような傾向がおき、単価下落に拍車をかけている」(その他の職別工事業)、「民間の着工棟数が、かなり増加の感があり忙しい」(土木工事業)、「お客様(主にハウスメーカー)が年内予算達成との事。当社も同様です」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「海外から仕入れている原材料や部品が、円安の影響で定価の改訂や値上げ要請が出始めている」(その他の機械・同部品製造業)、「アルコール消費動向がビール類中心に移った結果、その他の酒類は前年微減となった模様」(酒類製造業)、「参議院選で自民党が勝利した事により日本国内の経済に期待したい」(一般産業用機械・装置製造業)、「仕入先より値上げの要請がありました」(電子応用装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「中元ギフトについては早期申し込み(6月)傾向が年々強まり、7月はやや苦戦」(百貨店)、「婦人服の落ち込みが大きく、セールになっても慎重な買い方が目立ち、従来以上に一点買いが増えている傾向がみてとれた」(その他の各種商品小売業)、「燃料費の値上げが止まらず、採算に影響がでる」(その他の各種商品小売業)、「この猛暑の影響で仕入れ単価が上昇しないか心配」(菓子・パン小売業)、「従業員は確保しにくくなってきた」(その他の各種商品小売業)、「今後も山沿いの水不足等が入荷の減少となり、品薄傾向から高値取引の展開になるかと思われます」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上げは増加しているが、各メーカー及び問屋さんが値上げを求めている」(酒場・ビヤホール)、「宿泊は、シェアの変わらないマーケットの中で新規参入により販売経路がWebに偏り一室単価を落とす事となる」(ホテル)、「個人旅行需要、夏の旅行は国内・海外とも好調。法人需要はアベノミクス効果がいまひとつ実感できない」(旅行業)、「選挙で自公政権が大勝しいよいよ景気回復に向けて、具体的に政策を実施してくれる事を期待しています」(不動産代理業・仲介業)、「参院選挙結果でねじれが解消されたが、経済政策の右肩上がりに期待しつつ時間がかかること明らか」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税

各業種から、「消費税UPにたいして、需要は高まりつつある」(一般土木建築工事業)、「来年春からの消費税のアップによる買いいそぎもまだない」(その他の各種商品小売業)、「経済界では、「ねじれ」解消し、今後のTPPの加速や10月の消費増税になるのか、業界の動きと経済の見通しを見極めながらの対応におわれかねません」(食料・飲料卸売業)、「消費税が上がった時の消費税の反動減が憂慮されます」(不動産管理業)、「当面の懸念材料は金利上昇、光熱費高、消費税と固定資産税の税率アップ」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎受注増加

各業種から、「小規模工事は受注安定・景気の回復が必須に思う」(電気工事業)、「増税の影響か、工事の見積り依頼、受注件数は増加している」(その他の職別工事業)、「畳表替、畳裏返し工事、新畳仕上げ工事すべての注文が増えているので、感謝感謝の日々」(内装工事業)、「仕事量は増加傾向にある」(一般機械器具卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料値上げ

各業種から、「材料高騰分の工事単価は依然変更なしのまま」(その他の職別工事業)、「原材料価格が依然として上昇しつつあります」(内装工事業)、「原材料の値上げ、ガソリン高騰により経費が膨らみ、利益の減少で零細企業においてはまだまだ厳しい状況が続いている」(一般産業用機械・装置製造業)、「売上げは増加しているが、各メーカー及び問屋さんが値上げを求めている」(酒場・ビヤホール)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲22.9	▲17.2	▲27.7	▲41.1	△13.3
3月	▲17.3	±0.0	▲11.1	▲35.2	▲11.7
4月	▲24.7	▲4.3	▲5.5	▲58.3	△8.3
5月	▲18.6	△12.5	▲27.7	▲51.5	△12.5
6月	▲20.2	▲18.1	△11.7	▲44.1	▲6.2
7月	▲17.2	△3.8	▲23.5	▲41.6	△14.2
見通し	▲10.7	△11.5	▲29.4	▲22.2	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17. 2(前月水準▲20. 2)となり、マイナス幅が△3. 0ポイント縮小した。

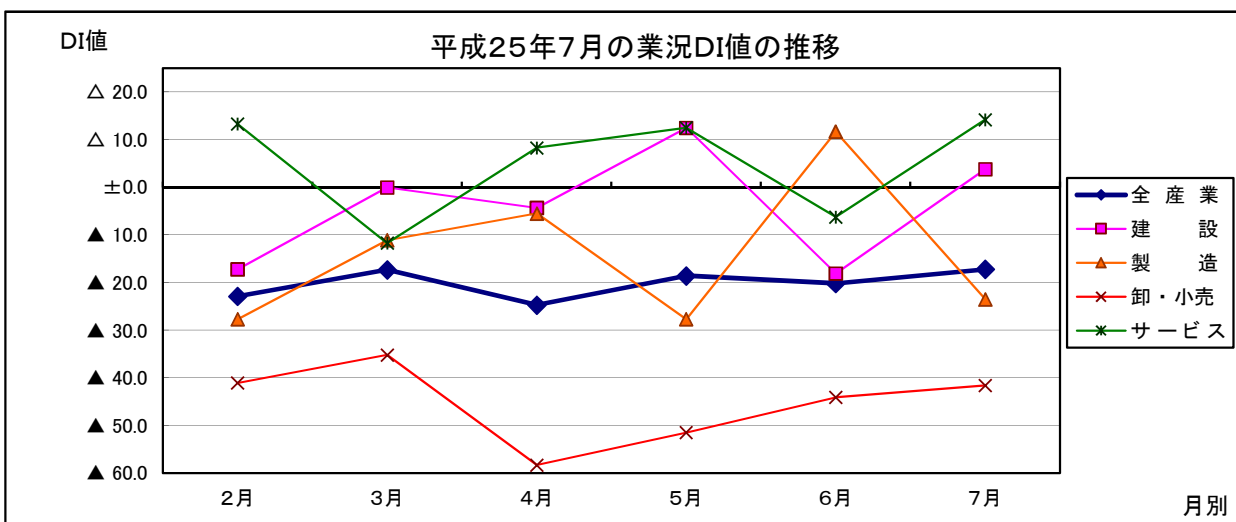
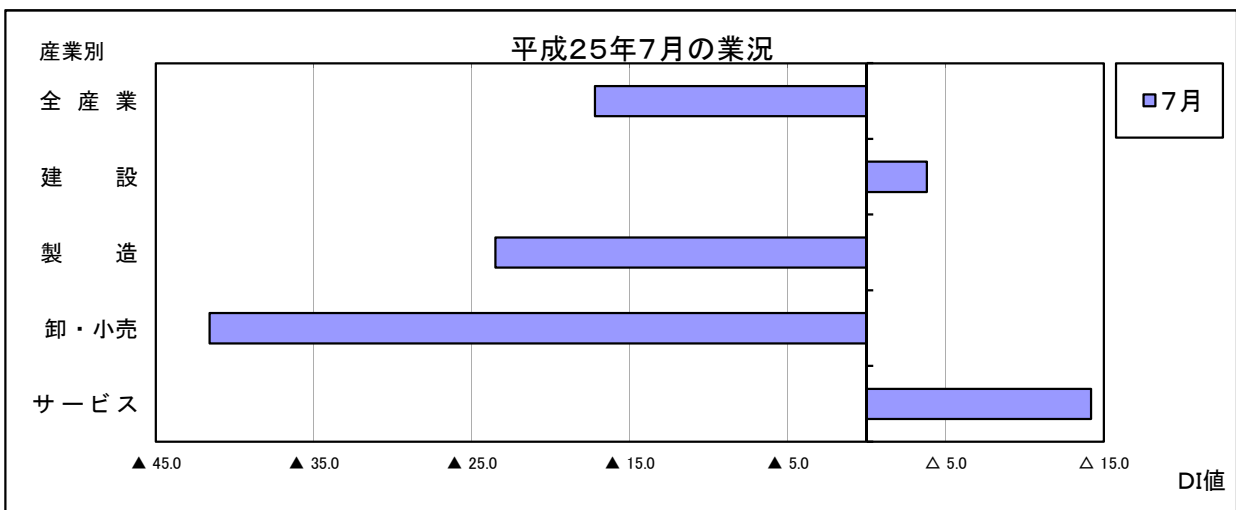
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、建設業△3. 8(同▲18. 1)、サービス業△14. 2(同▲6. 2)で、建設業は△21. 9ポイント、サービス業は△20. 4ポイントとプラス幅が大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41. 6(同▲44. 1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲23. 5(同△11. 7)であり、マイナス幅が▲35. 2と大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10. 7(前月水準▲8. 9)となり、マイナス幅が▲1. 8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△11. 5(同△4. 5)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業±0. 0(同▲6. 2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22. 2(同▲29. 4)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲29. 4(同△11. 7)であり、マイナス幅が▲41. 1と大幅に拡大した。

平成25年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲22.9	▲17.3	▲24.7	▲18.6	▲20.2	▲17.2	▲10.7(▲8.9)
建設	▲17.2	±0.0	▲4.3	△12.5	▲18.1	△3.8	△11.5(△4.5)
製造	▲27.7	▲11.1	▲5.5	▲27.7	△11.7	▲23.5	▲29.4(△11.7)
卸・小売	▲41.1	▲35.2	▲58.3	▲51.5	▲44.1	▲41.6	▲22.2(▲29.4)
サービス	△13.3	▲11.7	△8.3	△12.5	▲6.2	△14.2	±0.0(▲6.2)



【平成25年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.7(前月水準▲13.4)となり、マイナス幅が△2.7ポイント縮小した。

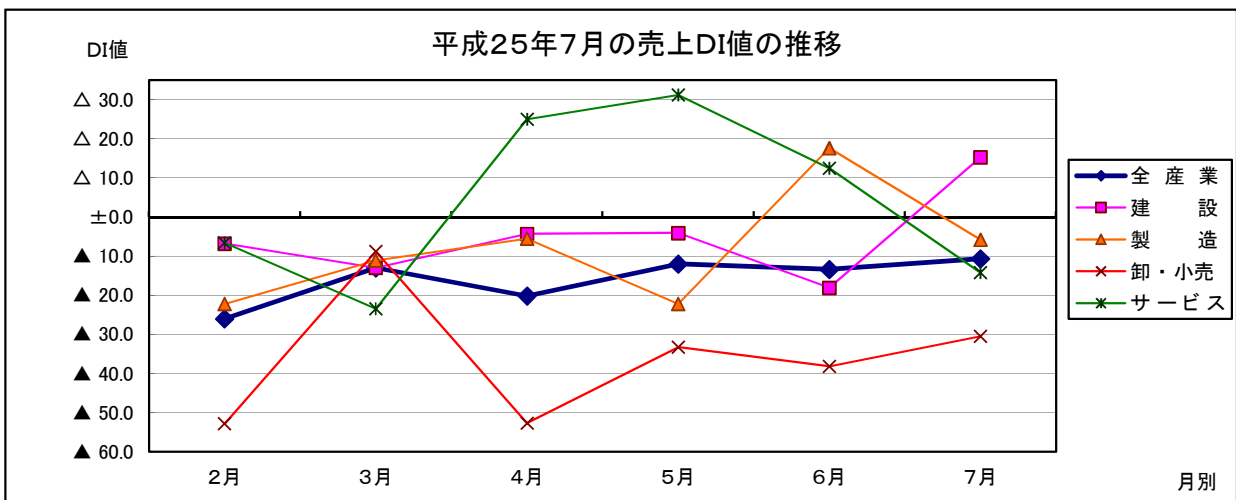
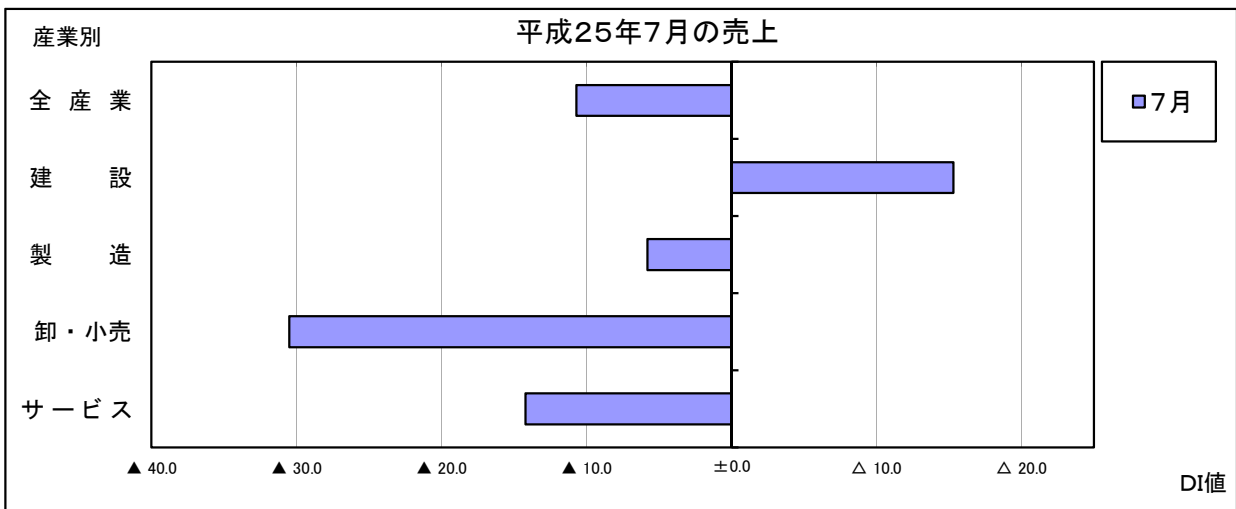
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△15.3(同▲18.1)であり、プラス幅が△33.4ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲30.5(同▲38.2)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業▲30.5(同▲38.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順にサービス業▲14.2(同△12.5)、製造業▲5.8(同△17.6)であり、マイナス幅がサービス業は▲26.7、製造業が▲23.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.1(前月水準△7.8)となり、マイナス幅が▲9.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△42.3(同△36.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に製造業▲11.7(同△35.2)、サービス業▲21.4(同±0.0)であり、マイナス幅が製造業は▲46.9、サービス業が▲21.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲22.2(同▲20.5)である。

平成25年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲26.0	▲13.0	▲20.2	▲12.0	▲13.4	▲10.7	▲2.1(△7.8)
建設	▲6.8	▲13.0	▲4.3	▲4.1	▲18.1	△15.3	△42.3(△36.3)
製造	▲22.2	▲11.1	▲5.5	▲22.2	△17.6	▲5.8	▲11.7(△35.2)
卸・小売	▲52.9	▲8.8	▲52.7	▲33.3	▲38.2	▲30.5	▲22.2(▲20.5)
サービス	▲6.6	▲23.5	△25.0	△31.2	△12.5	▲14.2	▲21.4(±0.0)



【平成25年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23. 6(前月水準▲20. 2)となり、マイナス幅が▲3. 4ポイント拡大した。

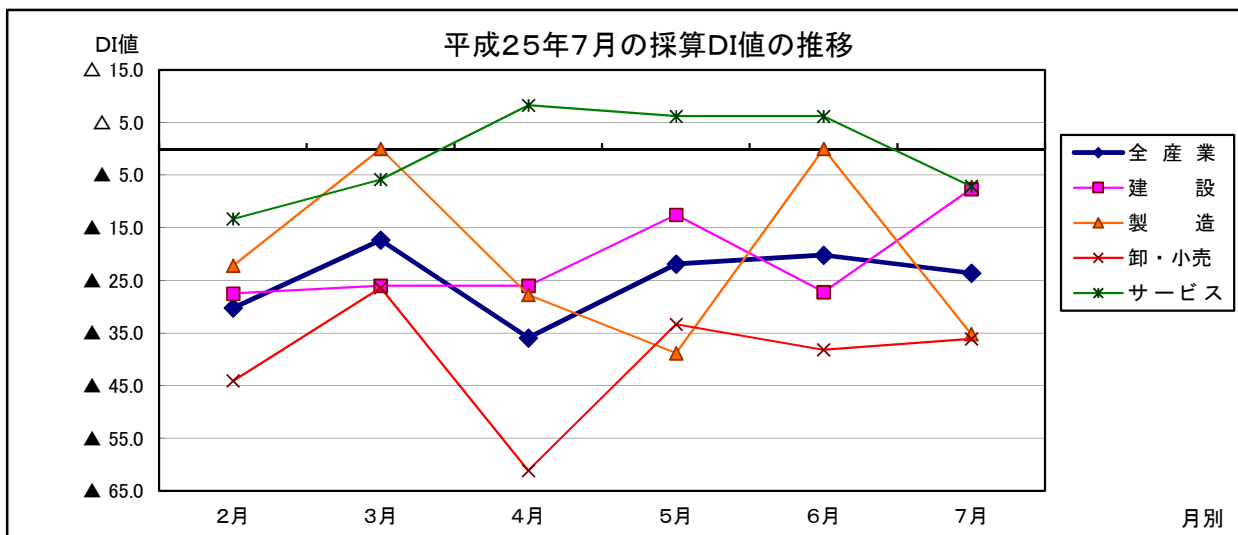
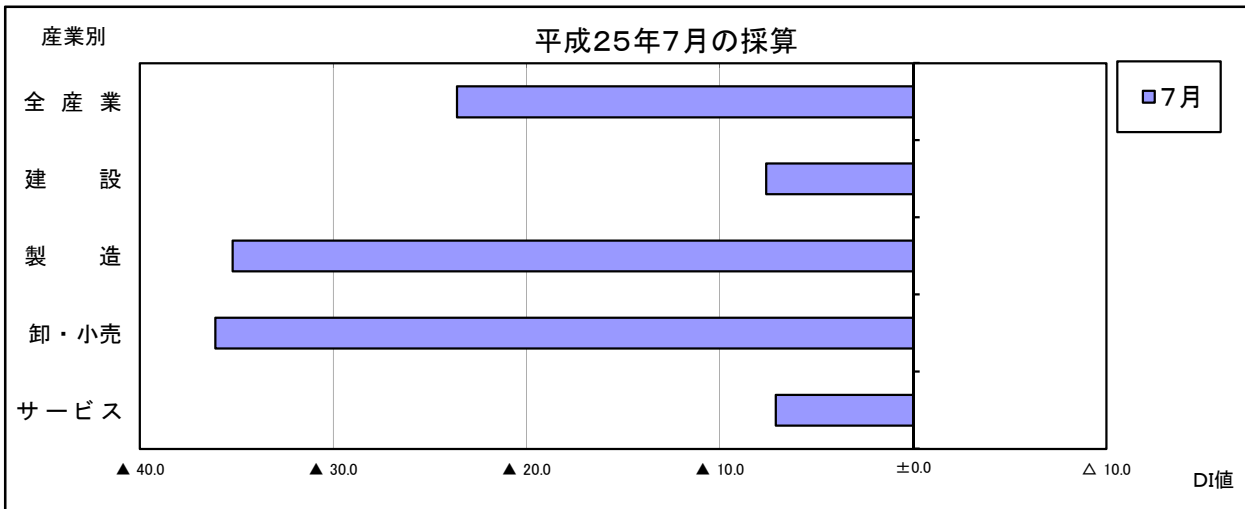
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲7. 6(同▲27. 2)、卸小売業▲36. 1(同▲38. 2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、製造業▲35. 2(同±0. 0)、サービス業▲7. 1(同△6. 2)であり、特に製造業はマイナス幅が▲35. 2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12. 9(前月水準▲10. 1)となり、マイナス幅が▲2. 8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△11. 5(同△4. 5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲25. 0(同▲35. 2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲23. 5(同△17. 6)であり、マイナス幅が▲41. 1と大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲14. 2(同▲6. 2)である。

平成25年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 30.2	▲ 17.3	▲ 35.9	▲ 21.9	▲ 20.2	▲ 23.6	▲ 12.9 (▲ 10.1)
建設	▲ 27.5	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 12.5	▲ 27.2	▲ 7.6	△ 11.5 (△ 4.5)
製造	▲ 22.2	±0.0	▲ 27.7	▲ 38.8	±0.0	▲ 35.2	▲ 23.5 (△ 17.6)
卸・小売	▲ 44.1	▲ 26.4	▲ 61.1	▲ 33.3	▲ 38.2	▲ 36.1	▲ 25.0 (▲ 35.2)
サービス	▲ 13.3	▲ 5.8	△ 8.3	△ 6.2	△ 6.2	▲ 7.1	▲ 14.2 (▲ 6.2)



【平成25年7月の仕入単価についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.2(前月水準▲39.3)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大した。

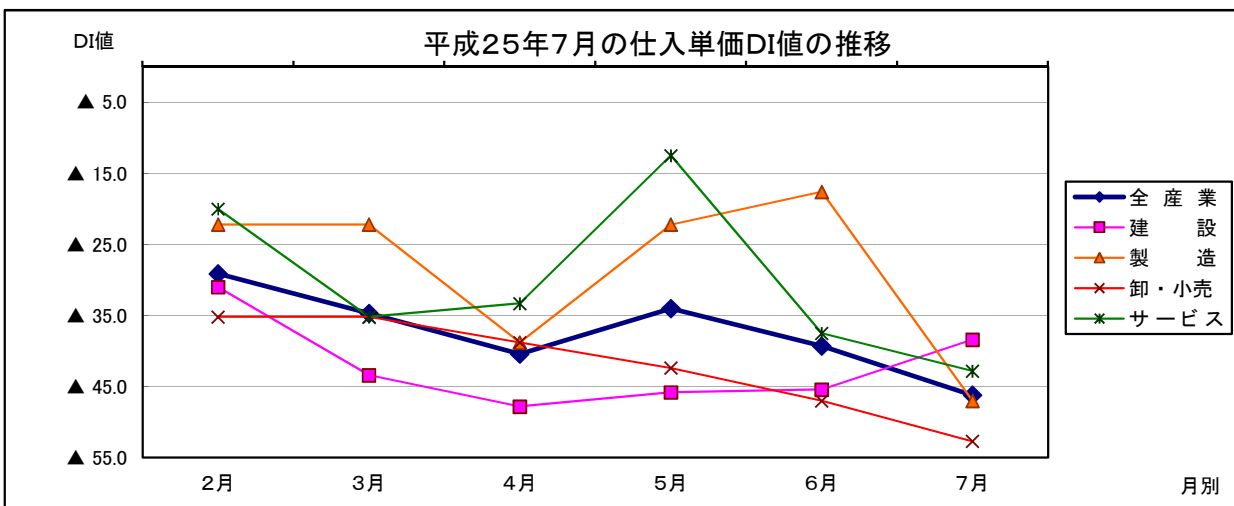
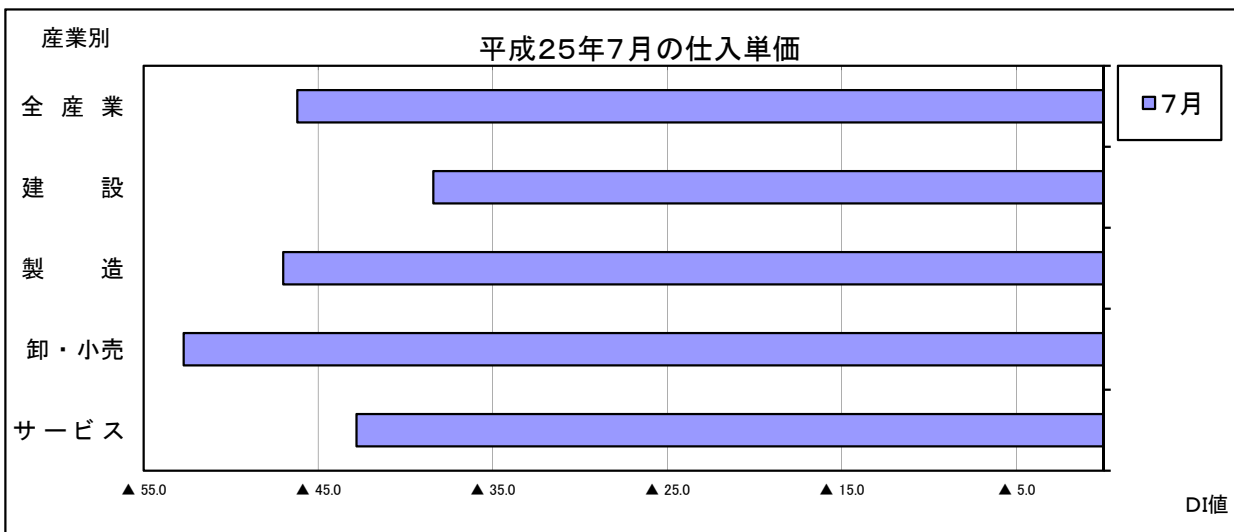
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲38.4(同▲45.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲47.0(同▲17.6)、卸小売業▲52.7(同▲47.0)、サービス業▲42.8(同▲37.5)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲29.4ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.7(前月水準▲33.7)となり、マイナス幅が▲5.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲37.5)、建設業▲34.6(同▲36.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲5.8)、卸小売業▲47.2(同▲44.1)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲29.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成25年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲29.1	▲34.7	▲40.4	▲34.0	▲39.3	▲46.2	▲38.7(▲33.7)
建設	▲31.0	▲43.4	▲47.8	▲45.8	▲45.4	▲38.4	▲34.6(▲36.3)
製造	▲22.2	▲22.2	▲38.8	▲22.2	▲17.6	▲47.0	▲35.2(▲5.8)
卸・小売	▲35.2	▲35.2	▲38.8	▲42.4	▲47.0	▲52.7	▲47.2(▲44.1)
サービス	▲20.0	▲35.2	▲33.3	▲12.5	▲37.5	▲42.8	▲28.5(▲37.5)



【平成25年7月の従業員についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、±0.0(前月水準△1.1)となり、プラス幅が▲1.1ポイント縮小した。

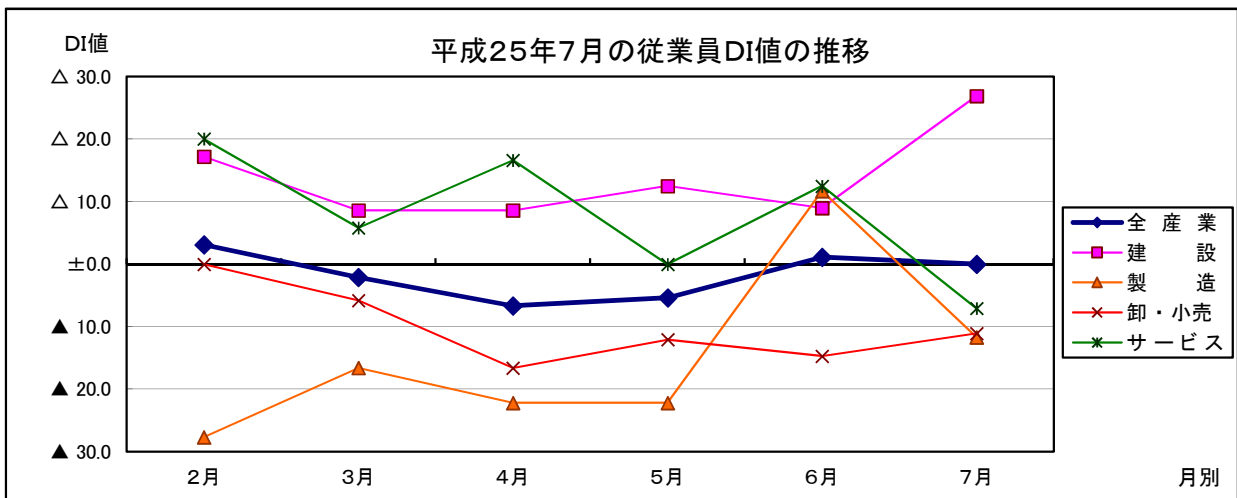
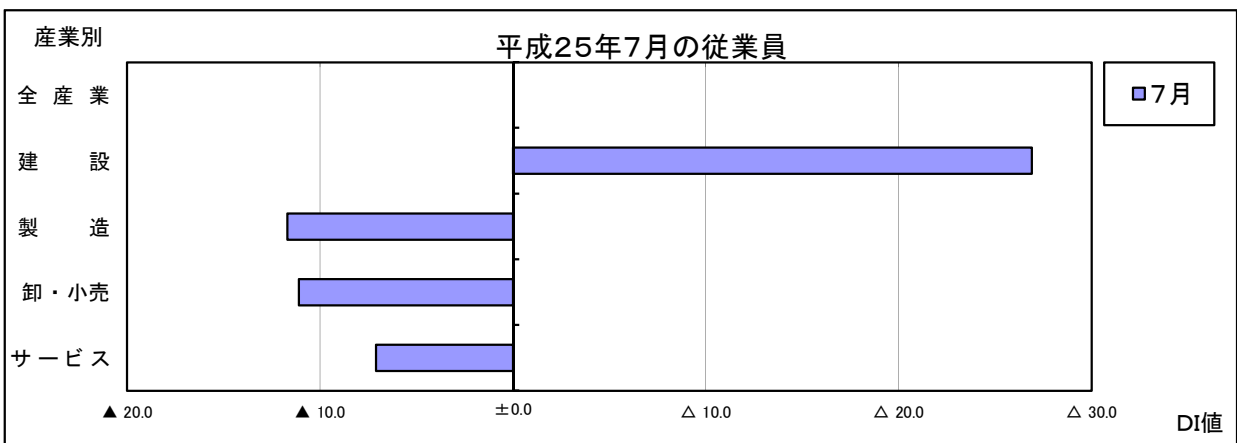
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△26.9(同△9.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲11.1(同▲14.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に製造業▲11.7(同△11.7)、サービス業▲7.1(同△12.5)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲23.4ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、全産業では、△4.3(前月水準△6.7)となり、プラス幅が▲2.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△30.7(同△18.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲5.5(同▲8.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.1(同△18.7)、製造業▲5.8(同△11.7)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲25.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成25年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△3.1	▲2.1	▲6.7	▲5.4	△1.1	±0.0	△4.3(△6.7)
建設	△17.2	△8.6	△8.6	△12.5	△9.0	△26.9	△30.7(△18.1)
製造	▲27.7	▲16.6	▲22.2	▲22.2	△11.7	▲11.7	▲5.8(△11.7)
卸・小売	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲12.1	▲14.7	▲11.1	▲5.5(▲8.8)
サービス	△20.0	△5.8	△16.6	±0.0	△12.5	▲7.1	▲7.1(△18.7)



【平成25年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9. 6(前月水準▲14. 6)となり、マイナス幅が△5. 0ポイント縮小した。

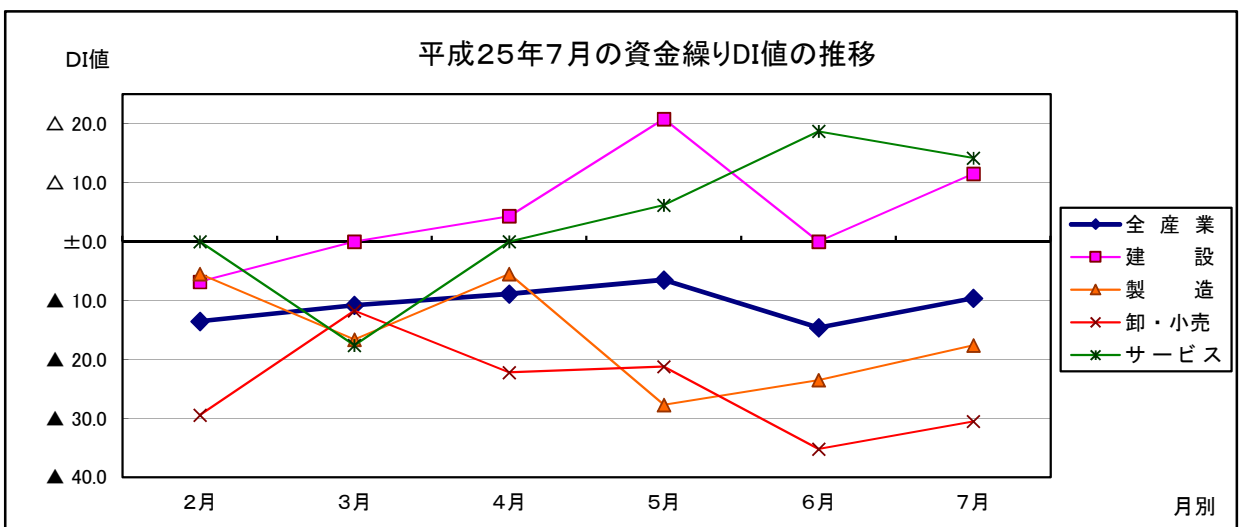
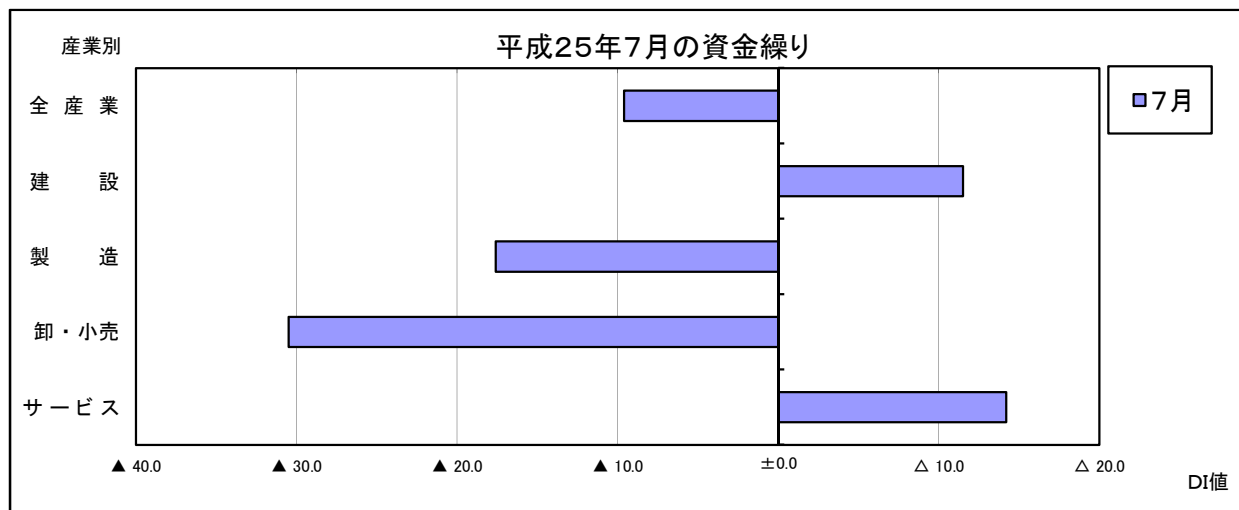
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△11. 5(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17. 6(同▲23. 5)、卸小売業▲30. 5(同▲35. 2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△14. 2(同△18. 7)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10. 7(前月水準▲1. 1)となり、マイナス幅が▲9. 6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△7. 1(同△12. 5)、建設業△11. 5(同△13. 6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲29. 4(同△5. 8)であり、マイナス幅が▲35. 2ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲25. 0(同▲20. 5)である。

平成25年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲13.5	▲10.8	▲8.9	▲6.5	▲14.6	▲9.6	▲10.7(▲1.1)
建設	▲6.8	±0.0	△4.3	△20.8	±0.0	△11.5	△11.5(△13.6)
製造	▲5.5	▲16.6	▲5.5	▲27.7	▲23.5	▲17.6	▲29.4(△5.8)
卸・小売	▲29.4	▲11.7	▲22.2	▲21.2	▲35.2	▲30.5	▲25.0(▲20.5)
サービス	±0.0	▲17.6	±0.0	△6.2	△18.7	△14.2	△7.1(△12.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.7	▲ 2.1	▲ 23.6	▲ 12.9	▲ 46.2	▲ 38.7	±0.0	△ 4.3
建設	△ 15.3	△ 42.3	▲ 7.6	△ 11.5	▲ 38.4	▲ 34.6	△ 26.9	△ 30.7
製造	▲ 5.8	▲ 11.7	▲ 35.2	▲ 23.5	▲ 47.0	▲ 35.2	▲ 11.7	▲ 5.8
卸・小売	▲ 30.5	▲ 22.2	▲ 36.1	▲ 25.0	▲ 52.7	▲ 47.2	▲ 11.1	▲ 5.5
サービス	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 42.8	▲ 28.5	▲ 7.1	▲ 7.1

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.2	▲ 10.7	▲ 9.6	▲ 10.7
建設	△ 3.8	△ 11.5	△ 11.5	△ 11.5
製造	▲ 23.5	▲ 29.4	▲ 17.6	▲ 29.4
卸・小売	▲ 41.6	▲ 22.2	▲ 30.5	▲ 25.0
サービス	△ 14.2	±0.0	△ 14.2	△ 7.1

【平成25年7月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	消費税UPにたいして、需要は高まりつつある	消費税 需要増加傾向	一般土木建築工事業
	他業種はわかりませんが、多分仕上げ業者は仕事がないです。材料を卸してもらっている商社も動きが無いとのことで、不気味な静けさです。	受注減少	石工れんがタイルブロック工事業
	エアコン工事が増加。省エネタイプに取替えが多い。小規模工事は受注安定・景気の回復が必須に思う。	受注増加 エアコン工事 景気回復感	電気工事業
	増税の影響か、工事の見積り依頼、受注件数は増加している。しかし、材料高騰分の工事単価は依然変更なしのまま。その分現実に利益は下がり、先行きの資金繰りが不安である。利益率が低いので売上げを増やし、利益を確保しようと薄利多売のような傾向がおき、単価下落に拍車をかけている。施工単価の見直しがされない原因でもあるようだ。	消費税の影響 受注増加 原材料高騰 工事単価不変 先行き不透明 薄利多売 単価下落	その他の職別工事業
	民間の着工棟数が、かなり増加の感があり忙しい。	受注増加	土木工事業
原材料価格が依然として上昇しつつありますが、畳表替、畳裏返し工事、新畳仕上げ工事すべての注文が増えているので、感謝感謝の日々。	原材料値上げ 受注増加	内装工事業	
お客様(主にハウスメーカー)が年内予算達成との事。当社も同様です。	予算達成	その他の職別工事業	
製造業	海外から仕入れている原材料や部品が、円安の影響で定価の改訂や値上げ要請が始めている。特徴としては「10年据え置いてきた…」 「20年据え置いてきた…」という風に、比較的長期に吸収していたものが限界に達したように見受けられる。	円安の影響 据え置き限界	その他の機械・同部品製造業
	早い梅雨明けのため例年より早く本格的な夏場を迎え、アルコール消費動向がビール類中心に移った結果、その他の酒類は前年微減となった模様。	梅雨明け ビール	酒類製造業
	現在のところ柏は元気に動き出している感がある。浮き沈みの激しさもあるだろうけど、人口の増減は街のエネルギー増減に等しい。定年後自由な発想で街の在り方を変えて行こうとしている人達が頼もしく見えてくる。厳しい状況こそ様々なアイデアが生まれてくる感がある。	人口の増減	印刷業
	参議院選で自民党が勝利した事により日本国内の経済に期待したい。	参議院選挙 経済への期待	一般産業用機械・装置製造業
	仕入先より値上げの要請がありました。今後、他の仕入先からも同様の要請が増えてくると思われまます。	値上げ要請	電子応用装置製造業
原材料の値上げ、ガソリン高騰により経費が膨らみ、利益の減少で零細企業においてはまだまだ厳しい状況が続いている。	原材料値上げ ガソリン高騰 利益の減少	一般産業用機械・装置製造業	
卸小売業	前年7/1～開催のセールを本年は6/28～開催。また土曜日1日減少影響もあり衣料品を中心に苦戦。結果6.7月計ではほぼ前年並みの見通し。中元ギフトについては早期申し込み(6月)傾向が年々強まり、7月はやや苦戦。高額品については宝飾・時計の動きが好調。	セール 衣料品苦戦 中元ギフト 高額品好調	百貨店
	衣料品の場合、秋がいつ頃来るかによって売上の変動が左右する。残暑が9月いっぱい続けば秋物が飛んでしまい、いっきに初冬物の品揃えとなってしまう、一番難しい仕入れとなる。夏物はカットソーを中心に冷房用羽織物が出ているが旧来のジャケットタイプは不調、ブラウスタ입が品薄	天候の影響	婦人・子供服小売業
	円安もおちつき、株は少しずつ上がっているが、お客様の実感としてはまだない。購買意欲にまでつながらない。来年春からの消費税のアップによる買いいそぎもまだない。	円安 購買意欲 消費税	その他の各種商品小売業
	本年、クリアランスが7月立ち上がりの変更になったこともあり、売上減少しています。	セール 売上げ減少	百貨店
	7月は初旬セール前買い控えの影響は少なく、前年を上回る推移となった。4日(木)から開催したセールは初日と2日目の落ち込みが大きく、猛暑となった3日目の土曜日で大きく盛り返したものの、結果、期間中累計売上昨対は98.4%と前年を下回った。特に婦人服の落ち込みが大きく、セールになっても慎重な買い方が目立ち、従来以上に一点買いが増えている傾向がみてとれた。セール終了後はクリアランスを開催、猛暑の影響によりセール商材の消化に繋がった。月末に掛けては店頭をプロパー商品メインに打ち出し、晩夏物の早期実売に結びつけていく。	円安 購買意欲 消費税	その他の各種商品小売業
燃料費の値上げが止まらず、採算に影響がでる。	燃料費値上げ	その他の各種商品小売業	

【平成25年7月の業種別業界内トピックス】

	競合店出店の影響もあり売上げが多少減少している。	競合店出店 売上げ減少	各種食料品小売業
	7月前半の記録的な猛暑の影響で前年より売上が減少した。この猛暑の影響で仕入れ単価が上昇しないか心配。	猛暑の影響 仕入れ単価	菓子・パン小売業
	梅雨明けが早く、気温の高い日が続いたので売上げも順調だったが、後半に入り一転梅雨が戻ったような天候になったことから売上げが伸び悩んでいる。結局前年対比微増で終わる見通し、CVSは7～8月が売上げのピークなのでこれからは落ちて行く。従業員は確保しにくくなってきた。	梅雨明け 天候の影響 従業員の確保	その他の各種商品小売業
	今年は梅雨明けが例年より早く、猛暑続きや、昼夜の寒暖の気温差があったり、また大雨による被害が一部に出たり、めまぐるしく変わる天候となっています。これが青果物の生育に影響して入荷減少、単価高となって推移しています。今後山沿いの水不足等が入荷の減少となり、品薄傾向から高値取引の展開になるかと思われまます。経済界では、「わじれ」解消し、今後のTPPの加速や10月の消費増税になるのか、業界の動きと経済の見通しを見極めながらの対応におわれかねません。全体の景気浮上が望まれています。夏祭りや花火大会などイベントが多くなってきますので、青果物の安全・安心な取引を心がけてまいります。	梅雨明け 天候の影響 青果物の育成 水不足 TPP 消費税 安心・安全な取引	食料・飲料卸売業
	同業他社の攻勢にあい相変わらず忙しい日々を送っている。昭和の時代は夏期(赤字の時)は何もせず静かに過ごしていた時を思い出している今日このごろです。	同業他社	燃料小売業
	仕事量は増加傾向にある	受注増加傾向	一般機械器具卸売業
	売上げは増加しているが、各メーカー及び問屋さんが値上げを求めている。値段上昇商品の取扱いを変えています。	売上げ増加 原材料値上げ	酒場・ビヤホール
	選挙月(参議院議員)は宴会の動きは悪く宴会部門の売り上げは大きく落とす。宿泊は、シェアの変わらないマーケットの中で新規参入により販売経路がWebに偏り一室単価を落とす事となる。	参議院選挙 新規参入 Web販売	ホテル
	個人旅行需要、夏の旅行は国内・海外とも好調。法人需要はアベノミクス効果がいまひとつ実感できない。	個人旅行好調 法人需要 アベノミクス効果	旅行業
	選挙で自公政権が大勝しいよいよ景気回復に向けて、具体的に政策を実施してくれる事を期待しています。	参議院選挙 政策に期待	不動産代理業・仲介業
	仕入れ価格、建築費が共に値上がりしています。売値は値下がり気味で採算は悪化しています。消費税が上がった時の消費税の反動減が憂慮されます。	仕入れ価格上昇 消費税	不動産管理業
	デパートの屋上のビアガーデンが人気で驚きました。やはりデパートが元気でなければ柏は成り立たないと思います。	ビアガーデン	不動産賃貸業
	当面の懸念材料は金利上昇、光熱費高、消費税と固定資産税の税率アップ。好感材料は柏近隣の人気回復傾向に伴う人口増加。ねじれ国会解消に伴う国策のスピードアップへ期待。	金利上昇 消費税 ねじれ国会 国策のスピードアップ	不動産賃貸・管理業
	参院選挙結果でねじれが解消されたが、経済政策の右肩上がりに期待しつつ時間がかかること明らか、そこまで耐えられるか・・・	参議院選挙	ソフトウェア業

サービス業

◎消費税

- ・ 消費税UPにたいして、需要は高まりつつある
一般土木建築工事業
- ・ 来年春からの消費税のアップによる買いいそぎもまだない。
その他の各種商品小売業
- ・ 経済界では、「ねじれ」解消し、今後のTPPの加速や10月の消費増税になるのか、業界の動きと経済の見通しを見極めながらの対応におわれかねません。
食料・飲料卸売業
- ・ 消費税が上がった時の消費税の反動減が憂慮されます。
不動産管理業
- ・ 当面の懸念材料は金利上昇、光熱費高、消費税と固定資産税の税率アップ。
不動産賃貸・管理業

◎受注増加

- ・ 小規模工事は受注安定・景気の回復が必須に思う。
電気工事業
- ・ 増税の影響か、工事の見積り依頼、受注件数は増加している。
その他の職別工事業
- ・ 畳表替、畳裏返し工事、新畳仕上げ工事すべての注文が増えているので、感謝感謝の日々。
内装工事業
- ・ 仕事量は増加傾向にある
一般機械器具卸売業

◎原材料値上げ




- ・ 材料高騰分の工事単価は依然変更なしのままだ。
その他の職別工事業
- ・ 原材料価格が依然として上昇しつつあります
内装工事業
- ・ 原材料の値上げ、ガソリン高騰により経費が膨らみ、利益の減少で零細企業においてはまだまだ厳しい状況が続いている。
一般産業用機械・装置製造業
- ・ 売上げは増加しているが、各メーカー及び問屋さんが値上げを求めている。
酒場・ビヤホール











平成25年7月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.2に対し、「CCI-LOBO」が▲14.1で柏の方がマイナス幅が3.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.7に対し、「CCI-LOBO」が▲8.7で、柏の方がマイナス幅が2.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI-LOBO」が▲16.9で、柏のほうマイナス幅が6.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.2に対し、「CCI-LOBO」が▲41.7で、柏の方がマイナス幅が4.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が±0.0に対し、「CCI-LOBO」が△4.6で、柏の方がプラス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業とサービス業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.6に対し、「CCI-LOBO」が▲10.5で、柏の方がマイナス幅が0.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。











平成25年7月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.2	 △ 3.8	 ▲ 23.5	 ▲ 41.6	 △ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 14.1	 6.0	 ▲ 15.8	 ▲ 22.8	 ▲ 14.4


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.7	 △ 15.3	 ▲ 5.8	 ▲ 30.5	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 8.7	 13.5	 ▲ 16.6	 ▲ 15.2	 ▲ 7.6


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.6	 ▲ 7.6	 ▲ 35.2	 ▲ 36.1	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 16.9	 ▲ 5.2	 ▲ 18.9	 ▲ 23.4	 ▲ 15.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 46.2	 ▲ 38.4	 ▲ 47.0	 ▲ 52.7	 ▲ 42.8
CCI-LOBO	 ▲ 41.7	 ▲ 55.6	 ▲ 44.9	 ▲ 32.5	 ▲ 38.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ±0.0	 △ 26.9	 ▲ 11.7	 ▲ 11.1	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 △ 4.6	 △ 16.7	 ▲ 3.4	 △ 7.4	 △ 7.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.6	 △ 11.5	 ▲ 17.6	 ▲ 30.5	 △ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 10.5	 ▲ 5.6	 ▲ 11.7	 ▲ 12.9	 ▲ 9.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：平成25年7月16日～22日

調査対象：全国の417商工会議所が3117業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3カ月ぶりの改善も、仕入価格上昇に対する不安が残る

7月の全産業合計の業況DIは、▲14.1と、前月から+3.2ポイントの改善。好調な建設業や、持ち直し傾向にある輸出関連企業が下支えしたほか、個人消費も高額品を中心に堅調なことから、回復基調が続いている。他方で、燃料(原油、ガス)や原材料の価格上昇・高止まりに加え、人件費、電力料金などのコスト負担が増している状況に変わりはなく、中小企業の中には、思うように業績改善が進まず、景気回復の実感に乏しいとの声も聞かれる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲9.5(今月比+4.6ポイント)と、改善する見込み。燃料・原材料などの価格動向や人件費、電力料金をはじめとしたコスト負担の増大を懸念する声は依然として多いものの、好調が続く建設業や持ち直し傾向にある製造業をけん引役に、回復基調は続く見通し。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、サービス業ではほぼ横ばい、その他の4業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「取引先からの発注が集中しており、自社や協力会社では深刻な人手不足となつている」(一般工事業)、「公共施設の耐震化工事が増えており、売上は好調に推移」(一般工事業)、「分譲住宅、注文住宅ともに増加傾向にある」(積石工事業)

【製造業】「輸入に頼っている原材料の価格上昇が続いており、経営への影響が大きい」(水産食料品製造業)、「無垢材を使った家具の売上が好調。東京や大阪での販促イベントを予定しており、先行きも期待できる」(家具製造業)、「海外向け製品の受注増加に伴い、設備投資や人材確保を検討中」(鋳物製造業)

【卸売業】「梅雨明けが例年より早く、晴天が続いたことから、夏物衣料などの受注が増加」(服飾品卸売業)、「小

麦の価格上昇により収益が圧迫されているものの、受注競争が激しく、価格転嫁に踏み切れない」(食料品卸売業)、「消費税引き上げ前の駆け込み需要により、売上が大幅に増加している」(建築材料卸売業)

【小売業】「夏物衣料や高額品が好調に推移。中元やセールによる売上増も見込まれる」(百貨店)、「飲食店や惣菜関連の売上が伸びている。今後は、例年以上の猛暑が予想されることから、暑さ対策商品を強化する予定」(商店街)、「扇風機やエアコンなどの夏物家電の引き合いが増加。他方で、大手量販店との価格競争が激しく、利幅は少ない」(家電販売)

【サービス業】「飲料や雑貨関連の受注が増加。自社だけでは対応できず、一部を外注しているため、収益が思うように上がらない」(運送業)、「猛暑の影響により、葉物野菜の価格が上昇。採算が悪化しており、今後の価格動向が心配」(飲食店)、「LCC就航の効果などにより、宿泊者数が伸びており、売上も増加」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲26.4	▲9.9	▲31.0	▲26.7	▲37.8	▲21.8
3月	▲19.7	▲6.4	▲27.4	▲15.7	▲25.4	▲17.2
4月	▲15.2	2.0	▲24.4	▲15.7	▲25.9	▲7.3
5月	▲17.1	1.6	▲20.7	▲20.4	▲29.1	▲12.8
6月	▲17.3	0.8	▲19.6	▲29.3	▲26.4	▲13.5
7月	▲14.1	6.0	▲15.8	▲20.7	▲22.8	▲14.4
見通し	▲9.5	9.2	▲10.9	▲9.6	▲17.5	▲12.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI